

目指す授業像（本学区では、共通してどんな授業を目指すのか）	
視点1「学習意欲の持続」	視点2「児童生徒が主体となる学び合い」
<p>学習課題を受け、解決のための見通しをもちながら、課題解決のために主体的に学び続ける児童生徒が見られる授業。</p> <p>【現時点での課題（授業者・学習者）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学当初のアンケートから「英語が好だ」という質問に対して否定的な回答が多く、その理由として、すでに英語に苦手意識を感じている生徒が多いことが分かった。特に「書くこと」については、その傾向がかなり顕著であった。ただ、「英語は大切だ」「仲間と話し合ったり、考えたりすることは大事だ」「失敗をおそれず挑戦することは大事だ」という項目については、前向きに捉える生徒が非常に多かったため、失敗しながら学ぶ大切さを実感させること。また、自分の考えをもとに仲間と考えたり、話し合ったりする活動を取り入れること。（学） ・アンケート結果から「自分から学習する方だ」という項目は否定的な回答が多く、自分を高めることを目的とした主体的な家庭学習ができないので、授業での自己評価と家庭学習の連動の工夫をすること。（授）（学） ・下位の生徒も意欲を持てるような学習課題の設定課題の工夫をすること。（授） ・課題設定が学習指導要領の領域に則しており、生徒の英語力を高める活動になっているか検証すること。（授） 	<p>自分の考えをもち、学び合いによってその考えを広げたり深めたりしながら、より良い考えにたどり着こうとする児童生徒が見られる授業。</p> <p>【現時点での課題（授業者・学習者）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下位の生徒でも主体的に考え、自分の考えを持つことができる授業の工夫をすること。（授） ・活動の段階で、「個別最適な学び」ができる活動が準備されているか検証し取り入れること。特に下位の生徒への対応は必要である。（授） ・グループ学習で全員が自分の考えを表現できるように問題の工夫やグループ活動の進め方の工夫をすること。（授）

第1学年 英語科 単元指導計画		
単元名 PROGRAM 7 Research on Australia 主教材名 : There is(are)~/ How~ （開隆堂 中学1年）	日 時	令和4年11月1日（火）5時間目
	対象学級	遠野東中 1年A組（21名）
	授業者	教諭 菅原 秋哉 ALT ロバート・スティブソンII
1 単元の目標 （何ができるようになるか）		
【知識及び技能】 〈知識〉 ・自己表現するための基本文型と基本表現を理解できる。 ・There is~や How~などの特徴やきまりを理解できる。 〈技能〉 ・日常的な話題について考えたこと感じたこと、その理由などを There is~などを用いて発表できる。 【書くこと イ】	【思考力、判断力、表現力等】 日常の話題について自分の考えを発表するために、これまで学習したことを活用して、理由を付け加えて、会話をつなぎ、自分のことをある程度即興で表現できる。 【話すこと（発表ア）】 【話すこと（やりとり）イ】	【学びに向かう力、人間性等】 会話をつないだり、理由を付けて自分のことをある程度の即興性を持って表現したりするために、仲間の発表を参考にして、さらに自分を高めようと工夫したり、これまで学習したことをうまく活用したり、相づちやジェスチャーを使い工夫しようとしている。
2 単元で取り上げる「課題解決的な言語活動」 （何を通して育成するのか）		
（関連：書くこと ア） 進出文型の There is~, How~の使い方に加え、これまで学習したことを活用しながら、自分の考えを整理して文章で伝える。		

3 単元の評価規準 (何が身に付いたか)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〈知識〉 ・自己表現するための基本文型と基本語彙を理解している。 ・There is~や How などの特徴やきまりを理解している。 〈技能〉 ・日常的な話題について考えたこと感じたこと、その理由などを There is~などを用いて発表できる技能を身に着けている。 【書くこと イ】	・日常の話題について自分の考えを発表するために、これまで学習したことを活用して会話をつなぐことや理由を付け加えて自分のことを即興で表現している。 【話すこと (発表ア)】 【話すこと (やりとりイ)】	・会話をつないだり、理由を付けて自分のことをある程度の即興性を持って表現したりするために、仲間の発表を参考にしたり、これまで学習したことを活用したりしようとしている。 ・相づちやジャスチャーなどを用いて、会話をつなげようと工夫しようとしている。
4 「2つの視点」+αによる授業改善 (どのように学ぶか)		
視点1「学習意欲の持続」	視点2「児童生徒が主体となる学び合い」	本校の+α「振り返り」
・主体的に問題解決に取り組む意識を持たせるために、ALT とのモデルを見せゴールへの見通しを示す。 ・生徒が興味・関心を持ち、自分の問題として考えられる課題の設定をする。	・仲間のスピーチを聞き合って、さらによりよくするための、気づきの交流の場を設ける。 ・グループでの活動は「発表の場」としてではなく、全体発表のための「発表の準備の場」としてとらえさせる。	①振り返りシートによる単元・本時の見通し。学習の積み重ねの確認。

5 単元の指導と評価の計画 (全8時間)		(単元をどうデザインするか)	
時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	<ul style="list-style-type: none"> 扉の写真やリスニングを通して、本課の内容を想起させる。 【Scenes 1】 There is(are)～の用法を理解し、自分の住んでいる地域にあるものについて表現する。 *自力解決→グループ→全体 	<ul style="list-style-type: none"> 導入と関連付けて、初見も There is～を意図的に使う。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 There is～の使い方を理解し、適切に運用できているかの確認 〔観察・発言・振り返り〕
2	<ul style="list-style-type: none"> 【Scenes 2】 how の疑問文の用法を理解し、学校に来る手段や方法などを尋ねるについて表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> How の使用場面を大切にする。 How に対する答え方も指導する。 How を用いて会話が続くように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 How の使い方を理解し、場面に応じて適切に運用できているか確認 〔観察・発言・振り返り〕
3	<ul style="list-style-type: none"> 【Think 1】 本文の確認・音読練習をする。 オーストラリアの文化について考える。 *自力解決→グループ→全体 	<ul style="list-style-type: none"> オーストラリアや世界遺産について考えさせる。 キーワードを与えながら内容について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 本文の内容を理解し、場面に応じた音読ができる。 〔観察・発言・振り返り〕
4	<ul style="list-style-type: none"> 【Think 2】 本文の確認・音読練習をする。 オーストラリアの文化について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 北半球と南半球の生活の違いに考えさせる。 南半球のクリスマスの過ごし方について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 本文の内容を理解し、場面に応じた音読ができる。 〔観察・発言・振り返り〕
5	<ul style="list-style-type: none"> 【Interact①】 文房具の置いてある場所を説明する。 There is (are) ～を用いて ALT に遠野の説明をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 文具の説明では、正しく運用することを目的とするが、単に置いてある場所を説明にならないように、やり取りを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断・表現】 There is を用いて簡単な遠野の説明ができる。 これまで学習した内容も効果的に用いている。 【学びに向かう力】 失敗をおそれず、自分を表現しようとしている。 〔観察・発表・振り返り〕
6	<ul style="list-style-type: none"> 【Interact②】 How を用いて日常生活のやり取りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> How を適切に用いること会話の流れが自然であるか評価する。 How の使い方や複数の意味があることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【思考・判断・表現】 How を用いて簡単なやり取りができる。 これまで学習した内容も効果的に用いている。 【学びに向かう力】 失敗を恐れず積極的に自分を表現しようとしている。 〔観察・発表・振り返り〕
7	英語のしくみ <ul style="list-style-type: none"> There is/are～?の疑問文、否定文の使い方と構造を理解する。 Step4 英語でやりとしよう Word Web5 疑問詞のまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> There is/are の構文を理解する。 疑問詞などを用いて英語でやりとりができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・理解】 疑問文・否定文に書き換えることができる。 Are も使うことができる。 〔観察・問題・発表・振り返り〕
8 本時	<ul style="list-style-type: none"> 【step 3】 (話の組み立てを考えよう) 「どちらが好きか」その理由を付け加え、簡潔に話すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書くことをせず、メモなどで簡潔にまとめ短時間でアウトプットできるようにする Google 翻訳を使って、英文や発音を参考にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【学びに向かう姿勢】 積極的に自分を表現しようとしている。 粘り強く取り組んでいる。 【思考・判断・表現】 これまで学習したことを使って効果的に表現している。 簡潔に表現するために英文を工夫している。 〔評価問題・振り返り〕 ・観察・発表・振り返り

6 本時の展開		(本時をどうデザインするか)
	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
導 入 5 分	1 マッチングゲーム 本時の授業に関わる Q and A を通してマッチする相手を探す。 2 本時の課題に迫る ALT が書いた英文を読む。 (City Life or Country life) 3 本時の学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを見せ合うだけでなく発話するように促す。 ・都会と田舎のどちらが良いかが、書いてある英文を読み取る。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【学習課題】 「都会と田舎のどちらに住みたいか」理由を付けてアドリブスピーチしよう。 </div>		
展 開 35 分	4 ALTによるモデルスピーチ *導入で示した英文 (1) スピーチの見通しを持つ City life と Country life 5 モデルスピーチを参考に自分でスピーチを考える。(5分) 6 グループによるスピーチ原稿の修正 7 全体でのスピーチ発表 8 まとめ	<p>【視点1：学習意欲の持続①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの住む「遠野」という視点から将来を考えさせ、自分たちの問題であると捉えさせる。 ・ALTのモデルスピーチの前に評価の観点を示す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ① メモをもとに理由を付け加えて説明できたか ② 目線・声の大きさ、ジェスチャーなどができたか。 ③ 発音を意識して、30秒程度でスラスラ言えたか。 </div> <p>【視点2：児童生徒が主体となる学び合い①】</p> <p>自分の考えをシェアしてもらうことがお互いの学習に繋がる意識を持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英文をそのまま書くのではなく、マインドマッピングさせる。 ・Google 翻訳を使ってもよい。 ・自分達の住む町「遠野」と「都会」という視点もを持たせる。 <p>自分で考えたスピーチをグループでシェアして深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習の場というより、発表の準備の場と捉えさせ、評価の観点を基に「内容が伝わったか?」「声は十分か?」などをお互いにアドバイスさせる。 ・評価の観点を意識させる。 ・発表を聞く態度を意識させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【思・判・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どちらに住みたいか?を理由を加えて英語で説明ができたかどうかを評価する。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「都会と田舎のどちらに住みたいか」だけに終わらず、自分たちの住む「遠野」と、どのように関わっていけばよいか問題提起させたい。
終 末 10 分	9 本時の振り返りを行う。	<p>【本校の+α振り返り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに本時の振り返りを記入する。 <p>*今日の授業でできたこと、できなかったことを踏まえて、今後の授業や家庭学習の改善につなげるという視点で振り返りをさせる。</p>

7 板書計画等

<p>Today's Goal</p> <p>「都会と田舎のどちらに住みたいか」 理由を付けてアドリブスピーチしよう。</p> <p><u>Which do you like City life or Country life?</u></p>	<p>遠野の未来も考える。</p>
<p>ALT のスピーチ英文 (例)</p> <p>I like city life better. I have two reasons. First there are many shops. We can go shopping in the cities. Second I can get many kind of books easily. So I like city life. Thank you for listening.</p>	<p>評価の観点</p> <p>① メモをもとに理由を付け加えて説明できたか ② 相手に伝わるように、目線・声の大きさ、ジェスチャーなどができたか。 ③ 発音を意識して、30 秒程度でスラスラ言えたか</p>



目指す授業像 (本学区では、共通してどんな授業を目指すのか)

視点 1 「学習意欲の持続」	視点 2 「児童生徒が主体となる学び合い」
<p>学習課題を受け、解決のための見通しをもちながら、課題解決のために主体的に学び続ける児童生徒が見られる授業。</p>	<p>自分の考えをもち、学び合いによってその考えを広げたり深めたりしながら、より良い考えにたどり着こうとする児童生徒が見られる授業。</p>
<p>【協議や助言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に使わせたい構文を予想して、ゴールや単元を見通すべきである。 ・遠野という視点を持って将来を考える点においては十分ではなかった。 ・都会と田舎どちらに住みたいかという、必要感のある話題で授業に意欲的に参加する様子があった。 	<p>【協議や助言の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳格にアドリブスピーチとまではいかななくても、お互いに助け合って下位の生徒も話すことができた。 ・グループリーダーがお互いの意見をまとめて、アドバイスをしている生徒が多かった。
<p>【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールを明確に示して、その達成手段として Google 翻訳を使わせたのは良かった。 	<p>【本単元を終えての成果 (授業者・学習者)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・厳格にアドリブスピーチとまではいかななくても、お互いに助け合って下位の生徒も話すことができた。
<p>【授業者所感・今後の実践に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的にアドリブスピーチできるように随所に「Why」などの質問を挟んでいくと効果的と思われる。 ・生徒に使わせたい単語なども、先を見通して働きかけていく必要がある。 ・Google 翻訳以外にも、辞書アプリの使用も検討したい。 ・「とらえる→広げる→まとめる」をさらに進化させる。特に指導と評価の一体化は大事である。パフォーマンス。評価やペーパーテストだけでなく、ディスカッションテスト、意見感想文などを作成するクリエーションテストなども今後取り入れていきたい。 	